

4つの『A』を意識したICTを活用した授業づくり

旭川市立末広北小学校 学級数 17 (5)

(校長 小野 敦司)

I 実践テーマの趣旨

昨年度からGIGAスクール構想により、校内LAN及びICT端末が整備され、児童や教員が日常的に使う環境が整った。本校では、ICT端末の導入当初から教員が端末の扱いに慣れるため、本体の操作やGoogle社のアプリケーションの使用方法などの研修を行い、その後、授業での具体的な活用について考えた。

ICTの効果的な活用について考えたとき、4つの「A」【Active(主体的・協働的・探究的学びを実現)、Adaptive(個に応じて学習を最適化)、Assistive for children(様々な学習上の困難を改善・克服)、Assistive for teacher(子どもと向き合う時間の確保・授業の質の向上)】の観点に沿って進めるべく「4つの『A』を意識したICTを活用した授業づくり」を行った。

II 実践の概要

1 Active(主体的・協働的・探究的学びを実現)

本校では、LMS(Learning Management System)として、Google社の学習支援ソフト(Classroom)を活用した。学習支援ソフトに、授業に必要な資料や共有リンクを載せ、児童が自主的に学習する際の拠り所とした。高学年では、グループ活動の際にウェブ会議(Meet)を利用し、児童が教室を行き来することなく、グループ間で情報を共有し、意見などの交流をすることができた。また、授業の後には、グループリーダーが表計算ソフト(スプレッドシート)に活動の進捗を入力することで、情報共有を行うとともに、全体で集まる時間を最小限にすることができた。低学年においても、クラウド上の電子ホワイトボード(Jamboard)に考えを書き込み合うことで、意思疎通を図ることができた。

2 Adaptive(個に応じて学習を最適化)

オンライン学習システム(eライブラリ)を活用し、教員が児童の実態に合わせて課題を指定したり、1時間や単元での学びを振り返り、児童自身が必要と感じる課題を選択して取り組んだりするなどして、個に応じた学習の充実に努めている。

3 Assistive for children(様々な学習上の困難を改善・克服)

コロナ禍における、学級閉鎖等に備え、オンラインによる学習の流れについて全体で確認した。全ての学級でオンライン朝の会を行い、ウェブ会議の参加方法(ログインの仕方、音声のオンオフの操作など)を学習し、試行的に授業を実践した。

また、感染予防上、異なる学年が集まる委員会活動を実施することが困難だったため、オンライン上で学級ごとに活動を反省する時間を設けた。考えを共有することができ、子ども同士が画面上で比較しながら意見を交流した。

4 Assistive for teacher(子どもと向き合う時間の確保・授業の質の向上)

職員用のClassroomを作成し、教職員で共有したい資料を投稿するようにしている。必要な情報を素早く伝達することができ、事前に読んでおくことができるので会議時間の短縮に繋がっている。また、Classroom上で、ICTを活用した授業実践の情報共有を行っており、各学年の実践を蓄積し、授業改善につなげている。

教職員がICTの活用に対して前向きに取り組んでおり、昨年度は学習発表会を録画し、保護者にオンデマンド配信を行った。今年度は、オンラインでの参観日や保護者面談など、教育活動で積極的にICTを活用している。

III 実践の成果(○)と課題(●)

- コロナ禍で教育活動に制限を受けることが多いが、ICTを組み合わせることで可能になる活動が多くあり、子どもたちの活動の幅を広げることができた。
- 文字を書くことが苦手な子どもが、ICT端末に音声を吹き込んだり、写真を撮影したりすることで、自信をもって自分の考えを伝えることができた。
- 子どもに身に付けさせたいことを教師が明確にイメージし、年間指導計画にICTの効果的な活用場面を位置付けていくことが大切である。

